



本町の教育指標：「進取の気象」「国際性」「社会貢献」

# 嘉手納町 教育委員会だより

令和8年8月発行 嘉手納町教育委員会



## 小・中学生に贈る励ましのメッセージ「言葉の花束！」

みんなちがって、みんないい。

金子みすゞ

『わたしと小鳥とすずと』ハルキ文庫

「私が両手を広げて、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を早く走れない」と始まる詩の最後がこの言葉です。みんなちがって、みんないい——何て素敵な言葉でしょうか。みんなと同じでないと生きていけないような厳しい現実があるからこそ、余計に心に響くのかもかもしれません。この世にまったく同じ人間などいるわけがないのに、私たちはなぜか「同じ」を求めたがります。同じでないと心配でたまりません。異質なことは排除されます。おかしい社会です。せめて教室の中では、一人ひとりの持ち味をお互いに認め合う関係になりましょう。この言葉を合言葉にして。

## 平和の尊さを胸に刻む、農林健児の塔慰霊祭

8月15日、嘉手納町の「農林健児之塔」で慰霊祭が執り行われ、約40人の参列者が、沖縄戦で犠牲となった旧県立農林学校の生徒や教師ら502人の御霊を追悼しました。當山町長は「悲惨な戦争が二度と繰り返されないよう、命と平和の尊さを訴え続けなければならない」と強い決意を込めて語りました。また、平和のメッセージを朗読した嘉手納中2年の名嘉希乃佳さんは「私たちは生きている。だから語り継がなければならない」と、基地のある町から平和への強い思いを力強く訴えました。



## 海を越えてつながる絆と歴史！小中学生が体感した「たねは海をわたる」ワークショップ

8月5日、嘉手納町中央公民館で小中学生を対象にした多文化体験型ワークショップが開催されました。野國總管が命がけで繋いだ「進取の気象」と、沖縄移民が故郷へ注いだ深い愛の歴史を次世代へ引き継ぐことができました。会場では、アルゼンチンに残る故郷の記念碑の写真に子どもたちが目を丸くして驚き、ボリビアの家庭料理づくりでは「衣がモチモチして美味しい！」と歓声を上げました。先人たちが海を越えて紡いだ絆に触れた子どもたちは、「自分にとっての進取の気象を見つけたい」と目を輝かせ、心の中に未来を照らす確かな種をしっかりと芽吹かせていました。



### 子どもたちの声（学び）

- ・ 嘉手納町の人口よりも、沖縄から世界へ渡った移民の方が多いなってびっくりした。
- ・ 戦後、ハワイの移民が550頭の豚を送り、アメリカ人が船を貸してくれたおかげで、今の食文化がある。先人たちの想いに感謝したい。など。

## 心をつなぐしまくとうばの響き ～子どもから大人までが熱演した大会～

8月30日、嘉手納町中央公民館で「第15回嘉手納町しまくとうば語やびら大会」が開催され、小学生や一般の出場者たちが日頃の想いを豊かなしまくとうばにのせて熱弁を振るいました。普段はしまくとうばを使う機会が少ないながらも自ら出場を志願し、最優秀賞に輝いた嘉手納小5年の松村望乃花さんは、「フラダンスを通して心を通わせる喜び」を流暢に語り、会場を温かな感動で包み込みました。また、お笑い芸人・じゅん選手による全編しまくとうばのユーモアあふれる講演会も行われ、会場は終始絶え間ない笑い声と笑顔で満たされていました。



## 体験して学ぶ命の授業！北区子ども会が実践的な防災講習を開催

8月14日、北区コミュニティセンターにて、北区子ども会を対象とした防災講習が開催されました。講師に米軍基地消防検査官のT先生を迎え、日米の防災意識の違いを踏まえた実践的なプログラムが行われました。会場では、非常ベルの本物のボタン押しや、服に火がついた際の合言葉「ゴロン、ゴロゴロ」の身を守る動きなど、子どもたちが体を動かして学ぶ体験型プログラムが展開されました。講師の具体的な説明と動画視聴を通して、火の怖さと対処法を楽しく学んだ子どもたちの真剣な表情が印象的でした。地域全体で防災意識を高める貴重な一日となりました。



## 遊びながら備える家族の防災力 ～身近なアイテムで命を守る技を体験～

家族みんなで楽しみながら災害への備えを学ぶ「かそく de ぼうさい講座」が8月15日、嘉手納町中央公民館で開催されました。会場となった大ホールには、多くの家族が集まり、子どもたちは真剣な表情で実践的な防災術に挑みました。新聞紙や身近なアイテムを使った応急手当のほか、断水時に役立つ「流さないトイレ」の作り方や、毛布で即席の担架を作る体験など、いざという時に命を守る知恵を学びました。また、消防士から直接教わる貴重な時間のほか、災害時の食事「いざメシ」の試食やテントでの避難所暮らし体験も行われました。子どもたちは真剣な眼差しでメモを取り、保護者の方々も「家族で防災について話し合う良いきっかけになった」と実感を込めて話していました。



●学校防災教育、3つの「道しるべ」(文部科学省)

自分の命は自分で守る

危険予測と主体的な行動  
現状理解と的確な判断  
自他の生命尊重と社会貢献

## 「がんばらない」から始まる地域づくり～宮城潤氏が語るこれからの公民館～

これからの地域づくりのヒントは、肩の力を抜くことにある。8月19日、嘉手納町中央公民館で第38回中部地区公民館研究大会（嘉手納）が開催されました。大会の目玉となった一般社団法人「まなびとまちと」代表理事・宮城潤先生の基調講演では、参加者が熱心にペンを走らせました。

「課題解決に特効薬はない」「がんばらない」「主語を替えてみる」といった、明日からすぐにでも実践できる独自の視点が次々と提示されました。

「公民館は、入りやすく抜けやすく、みんなで創っていく」という言葉に、会場からは深くうなづく姿が見られました。多様化する社会の中で、

人と人、人と地域を優しく結び直す公民館の新しいあり方を、参加者全員が心に刻む一日となりました。



## 地域で守り育てるバレーボールの輪～ニライスクールが描く未来のスポーツ環境～

子どもたちの練習環境を守りたい。8月17日、ニライ OKINAWA Volleyball School の池間智暖代表らが嘉手納町教育委員会を訪れ、熱い想いを届けました。同スクールは、嘉手納中学校の部活動設立困難をきっかけに、有志が2年半にわたり練習環境を維持・継続してきました。現在は全国大会優勝経験者を含む8名の指導体制で中学生25名を支え、質の高い指導を展開しています。懇談では、練習場所の安定確保や部活動のクラブチーム化を見据えた支援などについて具体的な要請が行われました。今後の部活動の地域展開を見据え、子どもたちが安心してスポーツに打ち込める環境づくりに向け、地域と行政が一体となって次の一步を踏み出す重要な契機となりました。



## 一般女子バスケ、郡大会5連覇の快挙！チームワークで栄冠を掴む

8月2日、西原町民体育館で開催された第54回中頭郡総合体育大会夏季大会バスケットボール競技（一般女子）において、嘉手納町体育協会が見事優勝を果たしました。今回で大会5連覇という偉業達成です。平均年齢36歳、普段は別々のチームで活動する選手たちが、大会1か月前に集結。合同練習で高めた結束力と、相手の攻撃を封じ込める執拗なディフェンスを武器に71対50で読谷村を圧倒しました。「子育てと競技の両立は尊い」と語る教育長に対し、選手たちの表情は達成感に満ちあふれていました。次は中頭郡の代表として、県民スポーツ大会へと挑みます。一般女子バスケットボールチームの活躍を期待しています！



## 空手世界大会、嘉手納中の2人が輝く！宮里さんV、金城さん3位

8月3日に開催された「第3回沖縄空手世界大会」の少女Iの部で、嘉手納中3年の宮里エリサさんが栄冠に輝き、金城咲彩さんが第3位に入賞しました。前回大会の覇者である姉へのプレッシャーを跳ねのけた宮里さんは、「姉を追いかけてきたのでほっとした」と安堵の表情を見せます。決勝で演じ抜いた難度の高い「セーサン」については、「これまでの練習のすべてをぶつけました。無心で集中し、演じ抜いた一瞬一瞬が今の自信につながっています」と、研ぎ澄まされた集中力を思い返しながら晴れやかな笑顔で語りました。一方の金城さんも全国大会を見据え、次なる高みへ視線を向けています。町長からの激励を受けた2人の目は、さらなる飛躍の決意に満ちあふれていました。



## 陸上クラブ「RYUKYU STAR RAW」が総合 6 位の快挙！芽吹く努力の成果

8月13日、町役場に訪れた陸上クラブ「RYUKYU STAR RAW」のコーチと選手たちが、第46回琉球新報オリンピック大会での輝かしい入賞を報告しました。クラブ結成6年目となる今年、全67チーム中「総合第6位」という素晴らしい成績を収め、少数精鋭としての底力を証明しました。幅跳びやリレーで手ごたえを掴んだ選手たちは、「次の大会ではさらに上を目指したい」と目を輝かせています。町長は「毎年力を付け、いよいよ芽が出てきた」と保護者の支えに感謝しつつ、選手たちの健闘を称えました。確かな歩みを続ける子どもたちの視線は、すでに次の全国大会を見据えています。



## U15 アジア選手権制覇、世界へ羽ばたく嘉手納の星

8月24日、町役場応接室にて、タイ・パタヤで開催された2026年U15アジア選手権の男子グレコローマンスタイル68キロ級で優勝した金城幸悠選手（佐賀・鳥栖工業高校、嘉手納中出身）の報告会が行われました。小中学校時代、コーチを務めた大城利幸さんは「幼少期からの柔道で培った技を生かし、わずか49秒で圧倒的なテクニカルスベリオリティ勝ちを決めた」と目を細めました。金城選手は「体力には自信がある。もっと技を極め、将来はオリンピックに出場したい」と声を弾ませ、町長は「町挙げて応援したい」と更なる飛躍に期待を寄せました。



## 海を越えて深まる友情！大山町との交流事業で育まれた子どもたちの絆

7月28日～31日まで、鳥取県大山町と嘉手納町の児童による交流事業が開催されました。本事業の目的は、民泊や多彩な体験活動を通して互いの風土を学び、郷土への誇りと豊かな人間性を育むことです。期間中、子どもたちは平和学習や首里城見学、ナビービーチでの海水浴を共にし、「大山の子は言葉の最後に『だ』をつけるんだよ」と新たな発見に目を輝かせました。短い日々の中でも温かな家庭生活を通して心を通わせ、「冬にまた会えるのが楽しみ」と胸を弾ませる子どもたちの姿は、未来へ続く確かな友情の芽生えを物語っていました。

